

者の城跡、米藏用水の井馬乗場など今に有、

〔山城名勝志十〕葛野郡嵐山在大井川南

五鳳集云、嵐山看花城西三里是嵐山、二十年來百往還、人已數莖、新白髮、花猶一笑、舊紅顏、龜山の

仙洞に、吉野山の櫻をあまたうつし、植て侍りしが、花の咲けるを見て、續古春ごとに思ひやら

れし三吉野の花は、けふこそ宿に咲けれ、太上天皇、龜山殿七百首あらし山暮るよりふる五

月雨に更てぞ瀧の音はきこゆる、左大辨宰相公明、新千載あらし山是もよし野やうつすら

ん櫻にかゝる瀧のしらいと、後宇多院、同さしもこそいとふ憂名のあらし山花の所といか

でなりけん、前關白勸請スル藏王堂ノ跡今存、土人呼權現ノ坦、

〔都名所圖會四〕嵐山は大井川を帶て、北に向ふたる山なり、龜山院、吉野の櫻をう

新千あらし山是もよしのやうつすらん櫻にかゝる瀧の白糸、後宇多院

新古思ひいづる人も嵐の山のはに獨ぞいりし有明の月、法印靜賢

續千あらし山麓の花の梢までひとへにかゝる峯の白雲、前大納言爲氏

〔閑田耕筆〕嵯峨の嵐山は、昔よしのをうつされて、藏王權現を勸請あり、千本の櫻を栽られし所なるを、貞享の年間に著せし山州名跡志には、土地にふさはぬにや、今はさくらなしと書り、さるを近世は櫻あまたにて、都下の壯觀となりぬ、是も二十年前迄は、唯好士のみ遊びて、大かたの人はおむろに聚り、帷幕數十百をもて算へしに、今かしこはおとろへ、大井の川邊煩らしきまで茶店軒を並べ、水上は舟連行絃歌かまびすしくなべてこゝを花の湊とす、世界の變遷かくのごとし、

大井山

〔日本後紀十三〕大同元年三月丁亥、大井、比叡、小野、栗栖野等山共燒、

〔日本後紀十四〕大同元年閏六月、口口勅云々、山城國葛野郡大井山者、河水暴流、則堰堤淪沒、採材遠